## 蛾の幼蟲、蛹、成蟲等の寫眞(12)

河 田 黨

(12) イ ラ ガ

## Cnidocampa flavescens WALKER

幼蟲は楕圓形で、兩端少しく膨らみ、腹面扁平。腹脚無し。頭部は前胸の 内部に隠される。各環節には2對づつの肉角があつて、中でも第1及び第9腹 環節にあるものは特に大きい。 之等の肉角からは澤山の刺が生じ、その刺は有 毒で、人間が之に觸れると著しい痛みを感じる。色は黄緑色。 背面に褐色の大 紋あり、その左右に青色の2線がある。

•蛹は太く短く、脚や翅や環節は互に固着してゐない。 初めは淡黄色、後に 褐色となる。

繭は楕圓形で、堅く、色は灰白色で、暗褐色の曲條を有する。樹木の枝に 附着してゐる。

卵は扁平。

年1回の發生、時に2回のものもある由。發生甚しく長期間に亘り、蛾は5月頃から10月まで、幼蟲は6月頃から11月頃まで見られる。繭中に前蛹の狀態で越冬、翌春に至つて蛹化し、次いで羽化する。羽化に際しては繭の上端が蓋のやうに開く。

繭は俗にスズメノショウベンタゴと呼ばれ、前蛹は魚釣の餌として用ゐられ、タマムシと稱される。

## 寫其說明

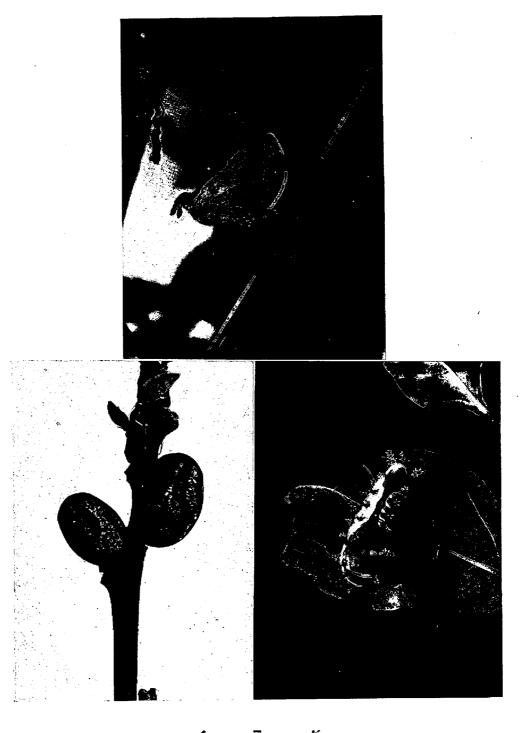
 上
 成
 蟲
 ×1.5
 1934年6月撮影

 左下
 繭
 ×1.5
 1935年5月撮影

 右下
 幼
 蟲
 ×1.0
 1931年9月撮影

KONTYÛ, VOL. IX, No. 5.

PLATE II.



**1 5 5** Cuidocampa flavescens WALKER